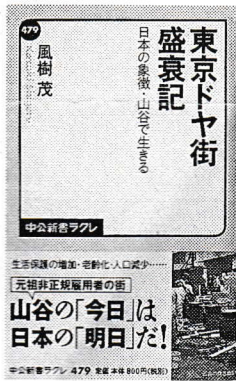


高齢化が進み生活保護受給者が増えたドヤ街の現状を描いた本

【書籍紹介】『東京ドヤ街盛衰記 日本象徴・山谷で生きる』風樹茂／中公新書ラクレ／840円

日雇い労働者の集まる東京・山谷。その地に流れ着いたある男の半生を追いながら、その町の変貌を描く異色のルポ。かつて働く者であふれた町も高齢化が進み、いまでは生活保護受給者たちが増え毎月多額の生活保護費が流れ込むという山谷の現状とは。

※週刊ポスト 2014年1月24日号



山谷から「人生の帰結」を考える

▼東京ドヤ街盛衰記―日本じ捨て場と表現する著者の象徴・山谷で生きる▼風 視点・生き方がまず独特である樹茂 山谷を「戦後日本のおける」「東京ドヤ街」(山谷)

の「盛衰」ももちろんだが、話の本筋とは直接関係のない著者の「独白」も本書の読みどころのひとつだろう。さて、著者が山谷で会った田口武彦さんというひとりの労働者の生死の真実を追っていくのである。著者は田口さんを「山谷無法松の一生」だとして、田口さんの故郷を訪れ

る。山谷の地を這う著者の視線からは、アベノミクスとやら虚妄がよりよく(?)見えるのだろうか、「アベノミクスは長続きしない」と実に明確に、本書終章のタイトルは「人生の帰結」。この寒い冬だからこそじっくり読みたい一冊だ。(12・10刊、二五六頁・本体八〇〇円・中公新書ラクレ)

2014.1.19
読売

『東京ドヤ街盛衰記』
風樹茂著
「あしたのジョー」の舞台ともなった東京・山谷は日雇い労働者の街として知られていた。しかし現在、ドヤ(簡易旅館)の数は減少し、宿泊者の多くは生活保護を受けているという。かつて知り合ったある労働者の消息を追いつつ、ドヤ街の今昔を克明に綴るドキュメント。著者は山谷の現在に、格差が広がる日本の未来を重ね合わせる。
(中公新書ラクレ、800円)

図書新聞 2014年2月1日号